

キャラクター名
前原 光輝

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	キュマイラ				
オプション		年齢	15~18?	性別	男性
覚醒	無知	衝動	闘争	初期侵食率	31 %
出自	疎まれた子	経験	記憶喪失	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	39
肉体	6	1	2			9	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	0	0	1			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	1		交渉		
回避	4		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
殴る	白兵	9r+5		1		
壊れた拳	白兵	13r+5	7	10		完全+コン+獣の力+
獣の嘆き	白兵	13r+5	7	20		完全+破壊+コン+獣の力
終焉の一撃	白兵	9r+5				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
携帯電話 (スマホ)	
赤と白の腕輪 (アクセサリ)	
制服	
カジュアル	
コネ: UGN幹部	
コネ: 噂好きの友人	
コネ: 警察官	
コネ: 傭兵	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
謎の男性	P 好意	N 不安		
黒薙 四郎	P 友情	N 劣等感		
Dロイス 羅刹	P	N		
天の羽衣	P 好奇心	N 脅威		
泉 信二	P 信頼	N 敵愾心		
夢城 銘	P 有為	N 敵愾心		
伊藤 菜月	P 幸福感	N 脅威		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセクトレイト: 狂マイ	3	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-SLV								
獣の力	2	2	Xジャー	武器	単体	白兵	-	
効果: 白兵攻撃力+6								
破壊の爪	2	3	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果: 白兵攻撃+11 ガード値1 至近								
ハンティングスタイル	1	1	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動が行える エンゲージ無視 シーン一回								
完全獣化	2	6	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果: 肉体ダイス 5 素手アイテム以外使用禁止								
復讐の刃	1	6	オート	至近	単体	白兵	-	
効果: リアクション放棄で攻撃可能 攻撃した場合C値-LV								
知性ある獣	1	2	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果: 完全獣化中 アイテム使用可能								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

初めの《記憶》は、6か・・・7歳頃の、UGNの病院だった。四肢は鎖で縛られ、まるで罪人のようだった。と記憶に残っている
その時理解できなかったが、今にして思えば俺は《危険》だったらしい あくまでも らしい だけど その日から俺は 言われた仕事をこなす
UGMチルドレンとして このUGNという組織に所属することになった。普通の日常とはかけ離れているが、違和感や嫉妬はあまり感じたことはない。前までも
うだったし、これからもそうだろう。今の自分はUGNの手足
それに違和感を持つことは許されないし、感じてはいけない。いつの日だったか・・・他のチルドレンは言った
「君って・・・ドコか壊れてるんだね」
と 自分でも思う。他人と考え方が違うのは今までの日常で感じてきた。俺は、別にそれでも構わないと思っている。その方が、UGNの《道具》として、動きや
ずいから・・・ だが何なのだろうか・・・この胸にある モヤモヤは

因みに現在は上から「一応学校には入っておいとけ」と言われ中学から引き続き高校に通っている 一応部活動で柔道部に所属している

一回目:ときめきBlossom 仮初の日常に戻った。 桜の主は消失し、新たな二代目桜の主が誕生した。 レインボースネークは、UGN側になり 黒薙の日常に戻る
ことが出来た。第三者から見ても立派なハッピーエンドだろう・・・。だが・・・この日からモヤモヤが大きく広がっていく、この気持は何なのか・・・日々
自分に問いかける、きっと これが幸せという感情だろう。只の道具として生きてきた自分を戸惑うには十分な条件だった。また、この日常は崩れるのだろう・・・
だが・・・守り続けよう この日常を・・・この脆く儂い日常を・・・

二回目: 天の羽衣 色々一悶着があり、日常に戻る。相も変わらず恋愛という感情は、理解できない。自分自身もそういうものを抱くののだろうか？
・・・それを抱いたら自分は自分でいられるのだろうか？ ・・・まあ そういふのを抱く日は来ないだろう。必ず